

10
Oct.衛生
トピックス

今月のテーマ：

これからの時期
食中毒・感染対策に備えよう

気温が下がり、空気が乾燥する季節がやってきました。今月はこの時期に確認しておきたい食中毒・感染対策として、ノロウイルス対策で備えておきたい嘔吐物等の汚物処理の備品準備の注意点や、手洗いのポイント、手荒れ対策についてお伝えいたします。冬場に気をつけたいノロウイルスやインフルエンザウイルス等が流行する前に、食中毒・感染対策に備えましょう。

ノロウイルスの流行前に汚物処理備品を確認しましょう

ノロウイルス感染者の嘔吐物や便には、多量のノロウイルスが含まれており、その適切な処理は感染を防ぐために重要です。ノロウイルスによる感染性胃腸炎や食中毒は年間を通して発生していますが、特に冬季に流行し、食中毒は例年11月から発生件数が急増しています。この流行前に嘔吐物等の汚物処理の備品を準備しておきましょう。



嘔吐物などの汚物処理に必要な備品は、昨年準備したから、今年はそのままで大丈夫？

「本当に備品は全てそろっていますか？」

「昨年と同じ場所にありますか？」

「いつでもすぐ取り出せるように保管されていますか？」

特に次亜塩素酸ナトリウム液の塩素濃度は性質上、経時的に低下していきます。塩素濃度1,000ppm以上で確実に使用していただくために、製造日から2年以上経過した場合は、買い換えをお勧めしています*。

汚物の処理ツールBOX



流行前にチェックしましょう

- ☐ 備品が全てそろっているか確認している
- ☐ 備品をどこに保管しているか把握している
- ☐ いつでも、すぐ使える場所に保管してある
- ☐ 汚物の処理方法のマニュアルがあり、方法を確認している
- ☐ 定期的に次亜塩素酸ナトリウム希釈液をつくり直している(3か月経過を目安につくり直すことを推奨*)

※ サラヤ(株)「汚物の処理ツールBOX」使用時の推奨

食中毒・感染対策の基本は手指衛生

さまざまな物に触れる人の手は、時として**食中毒や感染症を起こす細菌やウイルスが一時的に付着し**、知らぬうちに**手を介して食品や調理器具などを汚染して食中毒の原因**となったり、ドアノブや手すり、スイッチなどの**環境表面を汚染して接触感染**を起こすおそれがあります。手からの汚染を防ぐために、**手洗いや手指消毒により手を衛生的に保つこと**は**食中毒・感染対策の基本**です。

●手洗いのポイント

石けん・流水による手洗いは、細菌やウイルスを物理的に除去するために有効です。手洗いは、**洗い残しがないように、決められた手順で実施**します。さらに、**手洗いが不十分になりやすい箇所を意識して洗**いましょう。**指先**は特に不十分になりやすく、**用後は拇指球(親指の付け根のふくらみ)**が汚れやすいので注意しましょう。



手洗いが不十分になりやすい箇所

職場のみならず家庭でも日頃から、
手洗い・手指消毒を励行しましょう！

- 最も不十分になりやすい部位
- 不十分になることが多い部位
- 不十分になることが少ない部位

Taylor, L., Nursing Times, 74, 54 (1978)

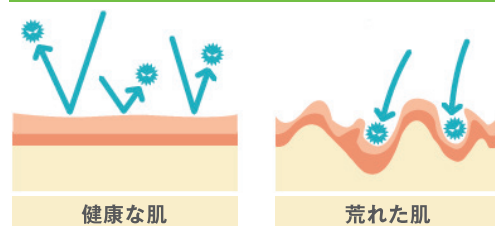
■ 手荒れによる食品衛生・感染症の問題

秋から冬にかけては空気中の水蒸気量が減少し乾燥するため、手荒れがおこりやすくなります。

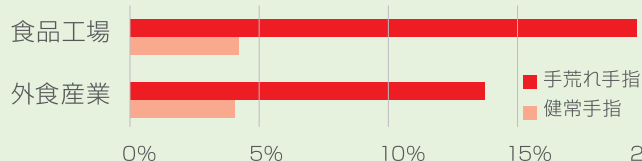
手荒れをした手指には食中毒の原因菌である黄色ブドウ球菌等が定着しやすくなったり、手が荒れると皮膚表面の凸凹が大きくなることによりノロウイルス等が入りやすく、手洗いで除去することが難しくなってしまいます。また、手が荒れると水や消毒剤がしみるため、手洗いや手指消毒が適切に実施できないおそれもあります。

健康な手肌を保つことは食中毒・感染対策につながります。

手が荒れると凹凸に入り込んだウイルスが
手洗いで除去しにくくなります



手指の状態による黄色ブドウ球菌検出率の一例



グラフは食品製造現場で働く人の手指の黄色ブドウ球菌の検出率を示しています。手荒れを自覚している人の手指からの検出率は、手荒れをしていない手指の約3～4倍であることがわかります。

西田博, 防菌防黴 12(2), 79(1984)改変

手荒れ対策は日常的に取り組むことが大切です。以下に手荒れ対策のポイントを紹介します。

日頃からハンドケア剤を使用する

- ・ハンドクリームや保湿ローション等のハンドケア剤を使用して、皮膚の水分保持機能の低下（皮膚の乾燥）を抑制する
- ・食品の製造に影響しない成分の製品を選択する

手荒れに配慮した手洗い石けん液や、手指消毒剤を用いる

- ・保湿成分配合など手肌に優しい製品を選択する

洗浄作業などの水仕事をするときには手袋を着用する

- ・作業しやすい手袋を選択する

水仕事の際に手袋が着用できない場合や手洗いの際には、水の温度に注意する

- ・温度が高いと皮膚の保湿因子であるセラミドや皮脂の流出を招く

洗剤や手洗い石けん液は十分に洗い流す

- ・皮膚刺激となる成分を洗い流して除去

水仕事や手洗いなど水に触れた後は、手指に水分が残らないように拭き取る

- ・水分が蒸発する時に皮膚の水分も奪う
- ・ペーパータオルの拭き方が皮膚刺激になる可能性もあるため、優しく拭き取る

手荒れがひどい場合は責任者に報告する

- ・炎症が見られる重度の手荒れでは、作業中は手袋を着用して外部からの刺激を遮断する
- ・皮膚科を受診し長期間改善しない場合は、担当作業を変更してもらう



人気!
コンテンツ

まだまだ新型コロナウイルス流行中、これだけは知っておこう!

従業員の感染対策のポイントをわかりやすく動画で解説



個人衛生コンテンツ!
スマホで手軽に見られます。

スマホで情報GET!

